
ARCADIA ver1.00 **スウィフトの手記_1/1/18**

Wiz Craft

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ARCADIA ver1.00 スウィフトの手記 | 1 / 1
/ 18

【Nコード】

N9608R

【作者名】

Wiz Craft

【あらすじ】

アルカディア創世暦一年、初日の十八刻曜。ステイアルーフの街に着いたスウィフトが思いのままに綴ったパーソナルビュー。ひよんな出来事からとあるコミュニティに参加することに。 §メインプレーヤー § Swift §ログ方式 § Personal View Target: Swift

いや、レクシア大陸って言ったつげここ。すごいよね。

エルムの島の空気とはまた密度っていうのかな。なんかこう、空間の広がりとか感じ方がちょっと違うんだよね。具体的な表現がなくて伝わりにくいと思うのだけど、何だろうな。エルムって島風というか完全に周りを海に囲まれてたから常時湿り気を感じてたんだけど、ここは大陸だから陸風も吹いてくるじゃない。これって結構大きな差だよな。

ん、海風と陸風って常時吹いてるもんじゃないって。昼と夜で変わるんだ。凧つてのもあるの。いや、そんならい知ってたよ。でも、あれでしょ。ハンバーガーはひっくり返してもハンバーガーってことでしょ。え、違うって。何だよ、静水压平衡って。訳わかんねえよ。ちょっとエルツが五月蠅いんで黙らせます。

で、何の話してたっけ。そうそう、レクシア大陸の話。レクシア大陸の話というか、ここステイアルフの話だね。何でもオープン段階からシムルーのイベントをクリアした人達はこの街に到達してたみたいけど。

いやあ、本当に綺麗な町並みで。十九世紀のヨーロッパみたいな風景だよな。石畳で。

その癖、オートウオークみたいな洒落たものまであってさ。

お、あっちで何か煙上がってない？ てか燃えてるよね。ってうお、光った！？ 爆発してるじゃん。何だよあれ。

え、PVP？ マジ！？ あれ。そうだよPVPだよ。ちょっと急いで見に行こうよ。

いやあ、最高だったな。あの法衣着た人の Magic Arts
半端ない威力だし。あの爆発凄かったよ。

熱風とかもろに観客の居るところまで飛んできてさ。煙の焦げ臭
い臭いとかが演出がリアル過ぎて焼け死ぬかと思った。どうも、Wh
ite Garden っていう有名なコミュニティだったらしい。

何かああいう凄いコミュニティに所属できたらいいのにね。新規
入団者とか募集してないかな。

それにしても、観客の見方ってのも色々だね。僕なんか興味津々
でさ。目をかっぴらいて見ちゃってたけど、リンスなんか恐くて目
も当てられなかったみたいで、爆発が起こる度に身体震わせて、一
度僕の手まで握ってきたんだ。ちよつとラッキーだよ。エルツに
限ってはあいつはやっぱり廃人嗜好というか、なんか見ながらファ
クターとキーワードの分析してたみたいで、あれは何と何のキーワ
ードを組み合わせてるのかとか物々呟いてた。

1 / 1 / 18 15 : 57 W r i t t e n b y S w i f t

PVPのイベントも終わって広場が開放されると、周囲の集まっ
てたギャラリーは拡散して人口密度も減りました。そんな訳で僕
らもちゃっちゃと早く宿へ行きたいし、ここへ残ってる理由なんて
本来ないのですが、ちよつと責任もってやらなくちゃならないこと
ができます。

というのも迷子の男の子が取り残されて泣いていたのですよ。何
分、僕らの目の前だったしリンスが率先して駆け寄ってしまったの
で、もはや放っておく訳には行きません。

どうも、保護者とイベントを見ている間にはぐれてしまったよう
なんです。ユミルというお姉さんの名前は分かったので、今エル
ツと僕で周辺に思い当たる限りのスペルで広域スキャン掛けてます。

ユミルだと Y u m i l , Y u m i r u , Y u m i l l , Y u m e

ai、YumeIとか他に可能性のあるスペルあるかな。

とりあえず、Yumiruで周辺に一人ヒットした子が居るので、確認のメッセージ送ってみようかと思えます。

1 / 1 / 18 16 : 27 W r i t t e n b y S w i f t

今ユミルさんと確認取れました。ビンゴです。

彼女も血眼になって弟さんを探していたらしい。広域スキャンで向こうも周辺を洗っていたみたいなのですが、何故か弟のチョッパイクんの設定がhiddenになっていてスキャン上に浮き上がって来なかったらしい。何故かは未だに不明ですが、あまりまだこの世界に慣れていない様子なので、細かい設定はいじれないと思うし、きつと何かの拍子で設定切り替えちゃったのだとは思いますが。

それにしても良かった良かった。

役目を終えた僕たちは、困っていた姉弟に笑顔で手を振り格好良く去って行く筈だったのですが、が、ですよ。ちよつとまた風向きが変わりまして、ユミルさんがどうしてもお礼をしたいとのことでもし、良かったらうちのコミュニティに入りませんか、と誘ってくれたんです。僕らとしてはこうした誘いは有難い限りなのですが、なんと詳しい話を聞いてみたらあのWhite Gardenだっというんですよ。

素性の知れないコミュニティへの入団はなるべく避けた方がいいなんて、渋ってたエルツもこれにはあっさりと掌返しまして。是非宜しく願いますと、自分から握手の手まで差し出しやがって。あのエルツがですよ!? 信じられませんかよね。

とりあえずは、まずはこれからコミュニティに挨拶に伺いに行くところですよ。

ちなみに、ユミルさんですが、めちゃくちゃ可愛いです。ときおり出る地方の訛りがたまらない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9608r/>

ARCADIA ver1.00 スウィフトの手記_1/1/18

2011年3月29日06時56分発行